



# 校長室だより

R5. 7. 3. 号

岐阜市立東長良中学校

## いじめについて考える日

令和元年7月3日、一人の尊い命が帰らぬものとなりました。その時から今日で4年が過ぎようとしています。本来なら19歳。高校を卒業し、大学生あるいは社会人として、希望に満ちた生活を迎えている年のはずでした。

岐阜市の小中学校では、これまで毎月3日にはいじめを見逃さない日、7月にはいじめについて考える日として、すべての小中学校の先生や児童生徒が改めて命の尊さやいじめについて考えています。そこには二度と同じ過ちを繰り返してはならないという強い思いが込められています。

この一人の先輩の死を決して忘れることなく心に刻み、一人一人ができること、やるべきことをしていかなければならないと誓い、命の尊さや仲間への思いやりについて考えていくことに取り組む **HERO** プロジェクト。3年目にして、『一人一人の居場所と幸せを大切にする』4つの校風、「協・優・敬・怒」の心は確実に本校に位置づいています。学校が以前の固かった雰囲気から柔らかい雰囲気変わったと、かつてを知る人たちから言われています。

ただ、仲間を大切にしない言動がゼロになったわけではありません。ほんの些細な言動が仲間を傷つけていることやそんな仲間が周りにいることに気づかずに生活している場面も無くなったとは言えません。だからこそ、授業や行事などのいろいろな活動で仲間と関わり合いながら、互いに考え、磨きあっているのが現在の私たちです。

先生も悲しんでいる人、苦しんでいる人に寄り添いたい。力になりたいと必死です。でも、気づけないことがあります。悲しんでいる人、苦しんでいる人の求めているような声かけができないことだっています。だからこそ、皆さんと一緒にこの課題を克服しようとしています。

今、取り組んでいる **HERO** 作文もそのひとつです。これまでの自分と向き合い、振り返りながら、思いの詰まった作文ができたものと思います。今日はその思いを仲間と交流しながら深めてください。

「あのことが起きてから4年が経とうとしている。今でも信じられない。嘘であってほしい。悔しい気持ち強い。後悔が一杯。救えた命なんです。だから余計に悔しい。なんとかならなかったのか。少しでも違う動きがとれれば今も生きていただろう。諦めがつかない。息子は帰ってこない。私たちはいろいろな方に話をしている。息子の命が無駄にならない様に。大変な中だと分かっているが、教訓として、いじめのことについて一生懸命に取り組んでほしい。。二度と同じことを起こしてほしくないです。」

ご遺族の言葉です。私たちは二度と同じことを繰り返してはならないという強い決意で生活しています。そして、生徒の皆さんといじめ克服に取り組んでいます。それが皆さんの幸せにつながります。先輩の死を決して忘れることなく、そして無駄にすることのないようにすることが私たちの使命です。